

宇部市の自転車交通に関わる当事者意見交換会（第1回）議事録

主催： うべ交通まちづくり市民会議

一般社団法人 中国建設弘済会「平成29年度中国地方地域づくり等助成事業」
事業名：宇部市の自転車交通に関わる当事者意見交換会と利用環境改善活動

1. 日時： 2017年12月19日（火）14:00～16:00
2. 場所： 宇部マテフレッセラ・テニスコート 第2会議室
3. 参加者： 17名（順不同・敬称略）

・宇部市

宇部市都市整備部 道路河川管理課 課長

（宇部市市民活動課： 宇部市 市民環境部 市民活動課 交通安全担当係 欠席）

宇部市教育委員会学校教育課 指導主事

・山口県

山口県宇部土木建築事務所 企画調査室 主幹
工務第1課 課長

山口県土木建築部 道路整備課 整備班 1名
同上 路政班 1名

・国土交通省中国地方整備局

山口河川国道事務所 交通対策課 2名

宇部国道維持出張所 所長

・山口県宇部警察署 交通課規制係長

・宇部市地球温暖化ネットワーク： 2名

・うべ交通まちづくり市民会議： 4名

・山口大学学生： 村上研4年 1名

4. 議事

○司会進行（兼久） 流れ説明

1) 挨拶、主旨説明（村上）

うべ交通まちづくり市民会議（通称、うべこまち）は2010年に設立し、宇部地域の交通環境の改善に向け、市民の立場で自らの行動変革を促す活動を実行することにより、人にやさしく車に頼りすぎない持続可能な地域社会の実現を目的として活動している。自転車交通については、宇部市の道路関係課や宇部警察署との協議に参加し、宇部自転車レーン（神原交差点から清水川交差点の間、法定外900m）の実現と安全な利用啓発に努めてきた。市内中学3年生には進学後の自転車通学安全を願って、近年、自転車ブックレットを配布している。

今回の企画について主旨は以下のとおり。

「誰が」は呼びかけ人としては、市民団体のうべこまちです。

「誰のため」は、人と環境にやさしい交通を求める宇部市民のため、自転車利用者のため、住み続けられるまちを求める未来の世代のため。

「目的」は、自歩道はもはや標準ではなく、自転車の走行空間を整備する必要、ネットワーク計画を準備する時代になってきていることを、地域の道路管理者や交通管理者に理解してもらい、その計画をすすめるための方策、道路の有り方を話し合うこと。さらに、自転車運転の交通ルールやマナーを自転車利用者の学生や市民に啓発し、車の運転者にも自転車との共存を促す方策や課題を話し合うこと。

2) 自己紹介

3) 話題提供、プレゼン

○国交省から

- ・自転車活用推進法の概要
- ・自転車活用推進に関する現状の取組
- ・安全で快適な自転車利用環境ガイドライン（一部改訂）について

○宇部市から

- ・道路河川管理課（村上課長）：

H27年度「自転車走行誘導レーン」900mを設置。車道混在タイプ。

利用方法・マナーなどの啓発活動・交通量調査など実施。

市長のマニフェストに「自転車利用促進」があり、宇部市総合計画の後期実行計画（2018年度～2021年度）に盛り込むべく立案中。コンパクトシティを目指し自転車利用を促進したい。

- ・市教委（村田主事）：

宇部市では小学4年から校区内の自転車利用を許可。中学生は市内どこでも走行可。神原中などでは自転車通学を禁止している。11月から部活等で利用頻度が大。出会い頭や自損事故が多い。運転テクニック未熟や速度出し過ぎ。西岐波中や桃山中校区で急坂も多い。

中学校別の利用状況（常盤、西岐波、黒石、川上等の中学校で自転車通学多い。資料をスライド説明）ヘルメット着用（市のPTA連合会と共に）・任意保険への加入・事故が起きた時の学校への連絡徹底を指導。

- ・市民活動課の資料説明： 市内高校生への自転車TSマーク助成制度

○うべこまち（村上）から、

（プレゼン資料）

自転車ネットワークを目指す市民WSの取り組み、
自転車レーン利用実態と高校生アンケート

<休憩 10分>

4) 意見交換 45分

- 司会：推進法の趣旨を共通認識とし、自転車ネットワーク計画のニーズと課題議論の出発点にしたい。

○宇部警察署

ヘルメット着用、左側通行を指導

自転車レーンの交通量調査を警察でも実施。レーン通行率は同様に12%だった。

高校生の自転車並走が多い、通勤者はかなり高速でレーンを走っている。レーンの幅が狭いのでは。自転車の事故は減少傾向、事故を起こしても子供が遠慮して警察に届けないことがある。

神原交差点の自転車横断帯は削除したので、自転車レーンから車道を直進横断できる。

違反自転車にイエローカードを出す取り組みは山口県ではあまり進んでいない

○山口県

土木建築部は通行帯や標識の整備、諸部署で交通安全の取組実施

サイクル県の政策は交流スポーツ人口の増加を目指すもので、自転車通行場所として街中の道路整備とはあまりリンクしていない

○ UNCCA 殿河内：

地球温暖化対策として自転車への期待

利用度が上がってから次のレーン延伸など次の施策に進むという方針は遅くなるのでは。

→市：そんなことは無い。レーンが市民に利用・賛同されると仕事が進めやすい。神原草江線の誘導帯は、自動車交通量が多いことが、使われにくい原因と思われる。）

○ UNCCA 三浦：ユーザーとして

整備計画は率先して立てるべきと思う。過半がいいねと考えてからでは遅い。中高生はその間も窮屈な思いで自転車に乗っている。

学生の逆走・並走が多い。学校側の指導強化を望む。

自歩道が終わっても歩道走行が多い（浜バイパス藤山交差点。太陽家具前）、空港からの県道標識が不備

○兼久：県は県道への諸提案（レーンや矢羽など）に対して他都市とのバランスや横並びを出来ない理由とすることがあるが、各都市で特色のある施策があつて良いことに対応できないか？

○ 県： 推進法の制定を待っていたが、今後、法に沿った県の方針・計画を策定していく。それが整ったら各市町村に降ろし実施となる。それ以前であっても個別の検討も可能である。

○ 山崎（山大）： 「タクティカル・アーバニズム」の手法が活用できないか、NY市タイムズ・スクエアで歩行者天国を作ったように、仮設的にレーンを入れてデータをとり前進する社会実験。ロスアンジェルスでは落書きアーティストが自転車レーンを路面に描いた。石灰粉のように消せる素材もあり。

○ 石井（うべこく）：国道2号線と190号線を管理、市民からの要望は今のところ無い。2号線は狭く、ツーリング自転車には危険な状況。

○ 太田（u n c c a）：琴芝通りの自転車逆走が多い、朝は琴芝交差点から踏切間、車両進入禁止で警察官が多いが、自転車はあまり取り締まらない。レーンの利用度が上がらないのは、安心感がないからと思う。

○ 加田（国）：制度に対して財政的措置もあるので利用されたい。宇部の自転車誘導帯は植樹を削れば自転車道も可能だったのでは。やはり安心感がないと車道に出てこない。

市： 誘導帯の路線は、2車線には広すぎる幅員の道路であり、自転車交通量も多いことから試行的に整備した。

5) 閉会の言葉 村上

市民団体として各団体のお願いし集まっていたいただき感謝。実り多い意見交換が出来た。宇部市は通学での自転車利用者が山口市に次いで県内2位くらいと多い。市民団体のUNCCAやうべこまちが自転車利用の応援旗を振る、貴重な地域。今回の意見交換会を今後ネットワーク協議会につなげて行きたい。

5. 資料等

1) 宇部市の自転車交通に関わる当事者意見交換会（第1回）のご案内・次第

2) 自転車活用推進法の施行について 国土交通省

3) 自転車の活用の推進に関する現状の取り組みについて 国土交通省

4) 安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（一部改定）について 国土交通省山口河川国道事務所

5) TS マーク助成制度はじめました 宇部市交通安全対策協議会

- 6) 自転車が通行しやすい道路ネットワークの提案～コンパクトシティ・宇部をめざして～ うべ交通まちづくり市民会議
- 7) 自転車レーン整備をめぐる市民団体「うべこまち」の活動、パーキングプレス 2017 5月号
- 8) うべこまち自転車ブックレット、自転車レーンマップ

